

アモルメットの導入(3) —RCA ケーブルへの適用(2)—

1. 始めに

[前報\(2\)](#)に引き続き、アナログ再生系のアナログ RCA ケーブルについて効果を確認することにしました。

2. アモルメットの試聴方法

今回はアナログ再生系のアナログ RCA ケーブルについて効果を調べますが、対象としては、カートリッジからトランスへのフォノケーブル入力端子付近（写真左）とトランスからフォノイコの iPhono への入力端子付近（写真右）を選択しました。トランスからフォノイコの iPhono への入力には、NS-285 が適用できる LINN の RCA ケーブルを使用しました。



アナログの再生は LINN LP12 の再生系で行います。

ZYX R100-EX→Ortofon ST-7→iPhono L/R 独立 2 台使用

3. アモルメットの試聴結果

カートリッジからトランスへのフォノケーブル入力端子への適用では、心もちノイズフロアーが下がったようで、もともと滑らかで柔らかい ZYX R100-EX の音が、その傾向を増したように感じます。

フォノイコの iPhono への入力端子付近の RCA ケーブル端子への適用では、同様の傾向が見られましたが、繊細感ではフォノケーブルでの効果の方が勝っています。当初は後ろのステージで入れた方が良からうと予想していましたが、この結果は昇圧前のより微小信号の段階の方で効果が大きいのではないかと考えられます。

4. まとめ

アモルメットのフォノケーブルのアナログ RCA ケーブルへの適用で効果を認めまし

た。

以上